

札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館 の指定管理者の選定結果について

1 選定委員会開催経過

- 第1回 平成29年7月25日 募集要項、選定方法等について
第2回 平成29年10月22日 書類審査、面接審査、選定

2 選定委員会委員

委員7名（市職員1人、外部委員6人）

- | | | |
|------|-------|--------------------------------|
| 委員長 | 北村 清彦 | 北海道大学大学院文学研究科芸術学講座教授 |
| 副委員長 | 三橋 純予 | 北海道教育大学岩見沢校アートマネジメント美術研究室教授 |
| 委員 | 齊藤 雅彰 | 日本劇作家協会北海道支部長 |
| 委員 | 松尾 大介 | 公認会計士・税理士 |
| 委員 | 三部安紀子 | 特定非営利活動法人北海道国際音楽交流協会（ハイメス）専務理事 |
| 委員 | 森永 晴之 | 社会保険労務士 |
| 委員 | 斎藤 義晶 | 市民文化局文化部文化振興課長 |

3 応募団体

- 団体名
公益財団法人札幌市芸術文化財団（※現指定管理者）
非公募により応募を求めた理由 別紙のとおり

4 選定結果（指定管理者候補者）

(1) 選定された団体

公益財団法人札幌市芸術文化財団 理事長 秋元 克広
札幌市南区芸術の森2丁目75番地

(2) 選定の理由

公益財団法人札幌市芸術文化財団は、札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館の管理運営業務における各要求水準を満たしており、さらに、札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館の選定基準に照らし、市民の平等な利用が確保される事業計画を提案している点並びに安定した施設の管理運営を担える健全な組織体制及び財務状況を有している点が特に優れていると評価された。

施設の効用発揮の点では、現指定管理者として、施設の設置目的を踏まえた数多くの事業実績を有するとともに、これまでの取組を発展させた新たな事業を展開している点などが高く評価された。

以上の点から、札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を効果的に達成するために、公益財団法人札幌市芸術文化財団は指定管理者の候補として適切であると判断された。

(3) 評価結果

選定基準	配点	候補者
①平等利用の確保	5点	4.00点
②施設の効用発揮	95点	75.00点
③安定経営能力	85点	66.21点
④管理経費の縮減	30点	7.60点
合計	215点	152.81点
得点率	—	71.1%

(4) 指定期間 平成30年4月1日～平成35年3月31日の予定

5 その他

平成29年第4回定例市議会において、公の施設の指定管理者の指定の件について議案を提出する予定。

市民文化局文化部文化振興課 TEL011-211-2261

札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館の指定管理者の選定方法を非公募とした理由

1 札幌芸術の森（以下「芸術の森」という。）及び本郷新記念札幌彫刻美術館（以下「彫刻美術館」という。）について

芸術の森は、文化芸術都市札幌のシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出することにより、豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境を形成することを目的として設置された施設である。

また、彫刻美術館は、昭和56年に民間の財団法人札幌彫刻美術館が管理運営を行う札幌彫刻美術館として開設した。本市の公の施設としては、出資団体改革により、財団法人札幌彫刻美術館と芸術の森の指定管理者であった財団法人札幌市芸術文化財団が平成19年4月1日に統合したことを受け、同日から、名称を「本郷新記念札幌彫刻美術館」に改め、供用を開始し、本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした文化芸術の普及振興を目的としている。

両財団の統合は、設置目的が類似し、事業領域が関連している芸術の森と彫刻美術館を同一の団体に管理運営させることによって、管理経費の節減及び市民の鑑賞機会の拡大を目的としたものであることから、財団統合の趣旨を踏まえ、両施設を一体的に管理運営していくことが必要である。

2 継続的な事業執行の必要性について

芸術の森では、施設の設置目的を達成するため、総合的な文化芸術施設という施設の特色を生かして、美術館での企画展覧会事業や工房での各種制作・展示事業のほか、音楽やダンス、演劇など規模の大きな音楽・舞台芸術事業を実施し、優れた文化芸術の鑑賞機会を提供しており、加えて国際的に活躍するバレエ指導者やプロ演奏家等、独自のネットワークを生かし高度なレベルの講師陣を迎えた人材育成事業を実施している。

こうした事業では、通常、企画立案から事業実施までの準備期間として、2、3年を必要とするものが多く、数年ごとに指定管理者を公募する状況では、事業を長期的な視点で継続的、安定的に運営することが困難となる。

また、彫刻美術館では、本郷新の業績を調査研究する研究機関としての性格を有しているほか、彫刻芸術の普及振興を目的として、収蔵作品を活用した常設展や企画展、各種講座等様々なソフト事業を実施していることから、長期的な視野に立った継続的な事業運営が求められる。

加えて、芸術の森及び彫刻美術館の管理運営には、高度な専門知識を有するスタッフの確保・育成、事業の企画立案等に関するノウハウの蓄積及び他の文化施設、文化芸術団体等とのネットワークの構築が不可欠であることから、同一の団体が継続的に管理運営を行う必要がある。

3 札幌市の関与の必要性について

文化芸術事業の成果は、入場者数や入場料収入などの収益性だけによって計られるものではなく、収益性は低くても将来の文化芸術の担い手を育成する事業や、市

民が自ら文化芸術を発信できる環境づくりなど、施設の設置目的の達成と、本市が目指すまちづくりの在り方という観点から考えていくことが必要である。

本市では、文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、市民が心豊かに暮らせる文化の薫り高い札幌のまちづくりに寄与することを目的として、札幌市文化芸術振興条例（平成19年条例第12号。以下「条例」という。）を制定し、これを受けて、本市の文化芸術施策推進の指針となる札幌市文化芸術基本計画（以下「基本計画」という。）を策定した。現基本計画は平成30年度で計画期間を満了することから、次期基本計画の策定に向け、現在、検討を行っている。

芸術の森及び彫刻美術館は、基本計画に沿って本市の文化芸術施策を進め、条例の理念を具体化するに当たって中核的な役割を担う施設の一つであることから、市と指定管理者が密接に連携しながら施設の管理運営を行い、事業内容の企画立案等を市と一体となって行うなど、本市による指定管理者への継続的かつ積極的な関与が特に必要となる施設である。

4 芸術の森及び彫刻美術館の管理運営の担い手について

現在、指定管理者として芸術の森及び彫刻美術館を管理運営している公益財団法人札幌市芸術文化財団（以下「芸術文化財団」という。）は、芸術の森の管理運営を行うために設立された、財団法人札幌芸術の森を前身としており、本市の芸術文化の普及振興を図ることを目的として設立された団体である。芸術文化財団は本市の出資団体であることから、市が人的及び財政的に関与し、継続的かつ安定的な事業執行が可能である。

以上のことから、本市が一定の関与を行う団体を指定管理者として指定するため、指定管理者を非公募により選定する必要がある。